

熱帯雨林で拓く新しい生態学

中村 生態学は生命誌の大事な一分野として関心を持っており、特に熱帯雨林のお話はずっと伺いたいと思っ
ていながら伺えずにきました。理由は井上民二さんです「註1」。

湯本 ああ、なるほど。

中村 井上さんがマレーシアのランビルで始められた林冠調査が、生命誌を始めたばかりの私にとつても魅力的で、この欄への登場をお願いしたら快く引き受けてくださったんです。「ただ、これからランビルに行かなければならないので帰ってから」と。そのランビル行きで飛行機事故に遭われたのです。

あれから二十年近く経ちますが、忘れられません。素晴らしい方でしたよね。湯本さんは若手としてその井上さんを支えていらしたわけですが、その中に収まらず、ご自分らしく展開していらっしゃる。

湯本 そういうところはありますね。

中村 学問とは、今最も大事なことは何かと問い続けることであり、これが大事だと思つたら今までの専門にこだわらず展開していくのが本来の姿だと思うんです。湯本さん

生態学から地球に 生きる知恵を

湯本貴和

×

中村桂子

湯本貴和（ゆもと・たかかず）
一九五九年徳島県生まれ。京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。理学博士。神戸大学教養部助手、京都大学生態学研究センター助教、総合地球環境学研究所教授を経て、現在、京都大学霊長類研究所教授。著書に『屋久島——巨木の森と水の島の生態学』（講談社ブルーバックス）、『熱帯雨林』（岩波新書）ほか。

註1：井上民二

【いのうえ・たみじ】[1947-1997]

熱帯生態学者。地上40メートルに及ぶ熱帯雨林の林冠調査サイトを立ち上げ、そこに生息するさまざまな生物の生態を明らかにした。1997年、フィールドへ向かう小型飛行機の墜落事故のため急逝した。